

眞如山と號し、淨土宗に屬する。開基は能美郡小松佛徳寺五代學譽超龍で、金澤に之を創立し、次代願譽の時、寛永十二年八月泉寺町の今の寺地を拜領した。

サンコウシキジ 三孝子記事 一冊。石黒尙安著。羽咋郡生神村久右衛門・彌波郡福光村大三郎・金澤仁太郎三人の篤行を、寛政六七八年に記したものである。著者は加州文學と書いてゐる。

サンコウズイヒツ 三公隨筆 七卷三冊。内題には三公隨筆夜話とある。前田齊泰以前三代間の雜説考證の書で、金澤の言葉に關する記載も少くない。跋には天保二月吉日宮井氏同と見える。

サンコウツキマチ 三光月待 ↓ニジュウロクヤマチ 二十六夜待。

サンゴクオンクンツウベンシヨウ 三國音訓通辯鈔 一冊。文久癸亥年沙門達普の序があり、巻頭に能州禪密兼學達普著とある。和漢梵語の音訓について説いたもの。巻尾販賣書店名の中に、能州寺口江尻某とあるから、著者は門前總持寺の僧であらう。

サンゴクメイブツシ 三國名物志 二冊。領内に産する動植物の漢名、和名を悉くイロハ別に編纂したものである。漢名は本草綱目の諸註を初め、他の本草諸書の出所を記し、和名は加能越の方言を本とし、他諸國の名稱を注してある。

サンコダイ 三湖臺 能美郡今江にある御幸塚をいふ。塚上から遙かに今江・木場・柴山の三湖を望むが故に名づける。三州奇談に、『今江の上の山は、三湖を一望に盡して三所の水月に對す。爰にてや、峰の月光りまされ

る光り哉 連歌師能順。』と記する。

サンザイ 斬罪 ↓ザンケイ 斬刑。

サンサンノオホボウス 三山の大方主 能美郡波佐谷松岡寺の蓮綱、江沼郡山田光教寺の蓮馨、河北郡若松本泉寺の蓮悟をいうたことは、實情記などを見れば判る。いづれも本願寺蓮如の子で、特別の由緒があつたから、之に對する禮遇極めて厚く、實如の遺筆によつて、若し一宗内に大事ある時は、近江近松の顯證寺、三州土呂の本宗寺と共に、この五ヶ寺の協議によつて決定せらるべきであると定められた。越登野三州志は之に讀山の文字を當て、『讀山の説不詳。越前に無讀門徒と號する大方あり。今云巡讀門徒の類か。』と註釋を加へてゐる。こゝに無讀門徒と記したのは、恐らく三門徒派のことであらうと思はれるが、それならば教義に於いて相違のあるもので、加賀の三山と比すべきではない。

サンシコウ 三四考 二冊。阿波徳島の俳人閑日庵鶴里編。天保七年孟冬日自序。天保九年徳島天満屋武兵衛板。乾の巻は文政初年編者が北陸行脚の際に得た北枝考・山中問答・蕉門談談隨聞記・附方自他傳等北枝の著のみを集め、坤の巻は萬和と鶴里の合著した幻住庵句解、芭蕉翁口授(金屏は寒し云々)、及び芭蕉翁口授に似せて鶴里の作つた合考を載せてある。

サンジャ 三社 石川郡戸板郷に屬する部落。郷村名義抄に、この村に三社があるので、初めは川原三社村と唱へたとする。しかし、正保・寛文・貞享の高辻帳には單に三社村とある。後に村跡が追々町地となり、最後の殘餘は明治十二年一月金澤に編入せられた。

サンジャガタキ 三蛇ヶ瀑 河北郡白瓦山の北松尾谷の溪流が三段になつて瀑を成すもの。大池の東方に在り、その下流は二俣川となる。

サンジツケンナガヤ 三十間長屋 金澤城内に於ける藩政時代の建築物は、明治四年に破壊されたのと、十四年二ノ丸御殿の火災によつて、今は殆ど遺容を見るに足るものがないが、唯僅かに残るものは石川門周圍の樓櫓塙と本丸入口にある三十間長屋のみである。三十間長屋の名稱は、その桁行から名づけたもので、往時は外に幾棟もこの種類のものがあり、武器・雜具を藏する倉庫であつた。建築年代は不明であるが、恐らく文化八年改築當時のものであらう。屋腰を飾つたなまこ壁が金澤城獨特の煉瓦積の如き並べ方で、優美の觀を呈してゐる。

サンジツコウマツリ 三十講祭 白山比咩神社にて、古へ三月廿二日の小祭をいうた。佛式の三十講が行はれたのであらう。石川郡横江郷内押越・野代・御經塚・八日市・市川等の村落でも、この日の産土神の祭を三十講祭と云うた。横江郷には白山本宮の神領があつたからである。

サンジャコウギマチ 三社公儀町 金澤の舊町名。中古大豆田公儀町なる正福寺等の地が村井氏の下邸に渡り、正福寺はこゝに轉じたから、公儀町の稱も亦移つたものであるといはれる。但し今は長土堀に屬してゐる。

サンジャゴジユウニンマチ 三社五十人町 金澤の町名。藩政中は足輕の組地であつたからこの町名がある。↓ゴジユウニングミ 五十人組。

サンジャドドメキ 三社百々女來 金澤の地名。龜尾記に、三社邊の堰は鬼川の downstream、その落ちる水音が高い故に、小立野の百々女來と同じく、昔はとどめきと呼んだのを、今は三社どんどと呼んで地名となつた。此の流に架せられた橋は三社百々女來橋といふべきであるが、金澤橋梁記に、『どんど橋、三社』とあり、今はどんど橋と呼んでゐる。

サンジャナナマカリ 三社七曲 金澤の町名で、今は三社七曲町とも呼ぶ。藩政の時は村井氏の下邸と今枝氏の下邸との尻地の道路で、屈曲が甚だ多かつたから俗に七曲りと呼んだのである。

サンジャノミヤ 三社ノ宮 石川郡三社に在つた。社僧は天台宗で、三社山常光寺といひ、白山・八幡・春日を祀つたともいふが、貞享二年の由來書には白山三所明神を勧請したとある。初め西念新保村に在り、次に廣岡村に移り、明暦元年三社村に轉じた。この地今金澤に屬する。明治元年神佛混淆禁止の後別當復飾して神職となり、社號を三社神社と改め、今は豊田白山神社と稱する。

サンジャマチ 三社町 金澤の町名。昔は三社村の地内で、三社の名は産土神の社號より起つたものである。今は世人此の附近一帯を三社又は三社臺と呼ぶ。この場合の臺は區域の意である。

サンジャミヤノウシロ 三社宮ノ後 金澤の町名。三社町なる三社宮の尻地をいふ。この名は既に元祿六年の土帳に見える。

サンジャミヤノマヘ 三社宮ノ前 金澤の町名。三社町なる三社宮の前通りをいふ。

サンジャヤマ 三蛇山 鳳至郡上黒川の部